

YIA 会員だより 2026年2月号

発行；吉野川市国際交流協会・広報部(Tel22-2271,Fax22-2270)

第 254 号 ホームページ URL <https://yia2020.net/>



【2月以降の活動予定他】

◎外国人お遍路ガイド 場所：鴨島公民館

第 40 回 2月 9 日 (月) 10:00～11:30

第 41 回 2月 28 日 (土) 10:00～11:30

◎第 10 回グローバルセミナー

日時：2月 28 日 (土) 13:30～14:30

場所：文化研修センター研修室 4

講師：川島在住のアリイさん (インドネシア)

◎第 10 回理事会 場所：文化研修センター

日時：2026年 2月 28 日 (土) 15:00～

◎多文化共生講演会

場所：文化研修センター研修室 5

日時：3月 8 日 (日) 13:30～15:30

講師：四国大学大学院生ベガさん (キルギスの話)

長田有加里さん (アフリカ 10カ国での活動)

◆新年恒例の「もちつき大会」

岡田 晋

恒例の西麻植青年会館と YIA 合同のもちつき大会が 1月 18 日 (日) に行われました。



今年は例年になく暖かい日となり、晴天にも恵まれ、今までで最高の約 100 人の参加があり、西麻植青年会館の方たちと、西麻植小学校の児童や保護者 50 人が一緒に「もちつき大会」を行いました。国際交流協会が参加するのは今回が 8 回目で、1月の定例行事として定着しています。YIA 会員、日本語教室に参加しているベトナム、インドネシア、中国出身の方々、TOPIA の長田さんと岩谷さん、徳島市内の行政書士事務所の杉尾さんなど 50 人が参加。初めてもちつきに挑戦する人も多く、「1. 2. 3」と大きな掛け声にあわせて力いっぱいおもちをつきました。室内では、もちを丸めることにも挑戦し、皆さん楽しくおもちを丸めました。広間では、福笑いのゲームや吉野川市のカルタで遊び、西麻植青年会館の方たちとも一緒に楽しく交流をしました。初めてもちつきに挑戦した受講生らは楽しそうでした。そして、つきたてのおもちが入ったぜんざいをみ



んなで美味しいいただき、おもちをお土産にもらって帰りました。参加された皆様ありがとうございました。

◆「もちつき大会」に参加

チャン・ティ・ホン

私は、もちつき大会の参加は二回目です。初めて参加した年は雪が積もっていてとても寒かったですが、今回は天気が良くて気持ちよく過ごすことができました。特に驚いたことは、参加者が 100 人以上いたことです。日本人の方だけでなく、インドネシア、中国、ハンガリー、そして私たちベトナム人など、さまざまな国の方が参加していました。

もちつき大会では、運営の方が材料を準備し、やり方を分かりやすく教えてくださいました。私は外国の友人たちと一緒にもちをつき、その後みんなで丸くてかわいいおもちを作りました。また、チョコレートやあずきの甘いお汁をいただき、とてもおいしかったです。

会場では、職場の先輩とそのご主人や娘さんにも会いました。日本の文化やお祭りについていろいろ話すことができ、日本文化についてもっと理解することができました。私は TV インタビューにも参加し、自分の感想を話しました。少し緊張しましたが、とても良い

経験になりました。

このようなすばらしいイベントを準備してくださった運営の皆さま、特に萩森先生、岡田先生、瀬尾先生、そして

多くの先生方に心から感謝いたします。

最後に閉会のあいさつがあり、帰る時には自分たちで作ったおもちゃをお土産としていただきました。とても嬉しかったです。これからも毎年、このようなイベントを続けていただき、私たち外国人が日本文化を体験し、いろいろな国の人と交流できる機会が増えることを願っています。本当にありがとうございました。

◆香川へのお遍路ツアー

1月12日、外国人お遍路ガイドグループのメンバー7人で、88番札所・大窪寺と前山へんろ交流サロン



を訪れました。吉野川市から北へ車で約40分、思ったより近く感じられる道のりでした。晴天ながら時折冷たい風が吹き、お寺の手水には氷が張るほど寒さでした。この日は外国人のお遍路さんの姿は見られませんでしたが、参拝者は多く、毎月12日に本尊護摩供が行われることが影響しているのかもしれません。

結願の寺である大窪寺には、遍路を終えた金剛杖が奉納されており、保管するお堂には長さも状態もさまざまな杖が並んでいました。底がすり減らず購入時ままの杖は車遍路、反対にすり減ってささくれ立った杖は歩き遍路の証であり、それぞれの旅路が静かに語られていました。

前山おへんろ交流サロンでは、遍路文化の歴史資料を見学。江戸時代の紀行本や古地図、納札、納経帳など、四国遍路の歩みを伝える貴重な展示に触れ、学びの多い時間となりました。大窪寺周辺の様子も詳しく知ることができ、今後のガイド活動にも大いに役立つ有意

義な訪問となりました。八十庵の打ち込みうどん、満席の中美味しく頂きました。



◆「東南アジア青年の船」のホームステイ

田村 実

第49回目を迎える内閣府主催の青年の船。今回は徳島県も受け入れ担当となり、1月17~20日徳島で滞在。ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナムからの青年リーダーら17名が2泊3日のホームステイと、徳島工業短期大学と県庁を訪問。知り合いの方からの要望で、我々もブルネイとタイからの青年を受け入れ、徳島を体験し、学び、楽しんでもらった。

ブルネイのアフィークは25歳の修士の学生で政治を専攻、タイのエックは27歳でインド大使館に勤務し明治大学に1年留学、言葉は英語で。

17日午後、徳島空港で迎え、うどんの昼食後、くるくる鳴門、1番札所靈山寺、大麻比古神社、大谷焼、小鳴門公園を案内し、スシローで夕食。18日は、希望により脇町のうだつ(三味線餅つき、假屋崎氏の個展)、祖谷のかずら橋、阿波おどり会館を巡り自宅で夕食。19日は、9時前にグランドパレスへ送って、我々の役割は無事終了。

彼らは、今後日本とのかけはしとなる期待を担った青年リーダーで



す。ホームステイ以外に、都内では、教育、経済と観光、地球環境と気候変動、防災と復興、社会福祉、デジタル社会とAIの6分野でディスカッション活動。1/24まで滞在し、その後シンガポール、タイを訪れて、2/17に解散のプログラム。

久しぶりのホームステイ受け入れでしたが、私なりのやり方で一定の役割を果たせたかと感じています。